

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名		相模女子大学			設置者名		学校法人 相模女子大学		
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成22年度)				
学部	学科等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員 就職者数	
						実数	個別		
学芸学部	日本語日本文学科	130人	中一種免(国語)	昭和26年度	115人	13人	13人	4人	
			高一種免(国語)	昭和26年度			13人		
			高一種免(書道)	昭和29年度			5人		
	英語文化コミュニケーション学科	140人	中一種免(英語)	昭和42年度	102人	5人	4人	1人	
			高一種免(英語)	昭和42年度			5人		
	メディア情報学科	95人	高一種免(情報)	平成20年度					
子ども教育学科	100人	幼一種免	平成20年度						
		小一種免	平成20年度						
栄養科学部	健康栄養学科	80人	中一種免(家庭)	昭和29年度	58人	14人	8人	2人	
			高一種免(家庭)	昭和29年度			8人		
	管理栄養学科	100人	栄教一種免	平成17年度	115人	13人	13人	0人	
入学定員合計		645人	合計		390人	45人	69人	7人	
大学名		相模女子大学(大学院)			設置者名		学校法人 相模女子大学		
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成22年度)				
研究科	専攻等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員 就職者数	
						実数	個別		
栄養科学研究科	栄養科学専攻	6人	栄教専免	平成20年度	3人	2人	2人	0人	
入学定員合計		6人	合計		3人	2人	2人	0人	
備考	・「学部・学科等の名称等」欄は、平成23年4月1日現在の名称・定員である。 ・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各学科等の実人数、「個別」欄は各学科等内の教職課程ごとの人数である。								



# 実地視察大学に対する講評

実地視察日：平成23年7月12日（火）

実地視察大学：相模女子大学

実地視察委員：横須賀薫委員、田村哲夫委員、天笠茂委員

## ■ 大学の教員養成に対する全般的な状況

<状況>

- ・2学部6学科で教員養成を行っている。

<講評>

- ・教員養成に関する教育課程、教員組織等については、全般的に基準を満たしている。
- ・ただし、教員養成に対して、大学としての統一した意思や方針が不明確である。

## ■ 教員養成に対する理念、設置の趣旨等の状況

<状況>

- ・学校の基本理念である「人格の陶冶」「女子に必要な専門の理論ならびに応用の攻  
究教授」「知徳円満の教養ある人材の育成」が教職課程における教員養成の基本理  
念になっている。
- ・設置趣旨は、高等教育機関として高度な専門教育の成果を通じて教育界に向けた人  
材の育成を行い、教育界全般の発展への貢献、社会への貢献を目指すことである。

<講評>

- ・大学としての教員養成に対する理念・構想が明確に示されていないことから、それ  
を明確化すること。
- ・教員養成に対する理念を具体化・具現化するため、教職課程に対する全学的な組織、  
教育課程や教員組織が充実したものとなるよう努めること。

## ■ 教育課程（教職に関する科目等）、履修方法及びシラバスの状況

<講評>

- ・シラバスを見る限り、教育職員免許法施行規則に定める含むべき事項が十分に含ま  
れていない科目が見受けられるため、法令の趣旨に沿って、授業計画を改善するこ  
と。
- ・学生に実践的指導力を身につけさせるよう、実務家教員の活用など、教育課程や教  
員組織を工夫すること。
- ・近年は、普通学級などにおいても特別支援教育に関する知識・技能が求められてい  
ることから、特別支援教育に関する内容をより積極的に扱うよう教育課程を改善す  
ること。

## ■ 教育実習の取組状況

### <状況>

- ・ 母校実習が9割となっている。
- ・ 県内や近隣の学校で行われる教育実習については巡回指導ができているが、遠方での教育実習については電話やメール、レポートを通じた指導のみである。

### <講評>

- ・ 教育実習の実施にあたっては、課程認定大学は、教育実習の全般にわたり、学校や教育委員会と連携しながら、責任を持って指導に当たることが求められる。
- ・ 大学による教育実習指導体制や評価の客観性の観点から、可能な限り大学が所在する近隣において実習先を確保することが望ましいが、学生が出身地の学校への就職を希望する等により、遠隔地における教育実習を行う場合においても、大学が、実習先の学校と連携し教育実習に関わる体制を構築するとともに、公正な評価となるように努めること。
- ・ 教育実習先として、併設学校園をより活用できるよう改善すること。

## ■ 学校現場体験・学校ボランティア活動などの取組状況

### <状況>

- ・ 子ども教育学科では、「教育インターンシップ」という科目において、学校現場での体験を行っている。
- ・ その他の学科では、「教育インターンシップ」のような科目は置かれていないが、近隣の自治体の教育委員会及び学校が行っているボランティアなどに関する情報を掲示板に掲示したり、学校のホームページに教職課程専用ページを作成し随時募集を図ったりするなど、学生に周知するための方策を講じている。

## ■ 教職指導及びその指導体制の状況

### <状況>

- ・ 履修の指導のため、各学年の各段階においてガイダンスを行っている。
- ・ 子ども教育学科においては、2年次終了時に実習参加資格の審査を行い、その他各学年終了時にも担任によって各学生の履修カルテのチェック、個別指導を行っている。
- ・ 子ども教育学科以外の学科においては、各教員や事務職員がその都度、個別の相談に応じている。

### <講評>

- ・ 履修カルテやカリキュラム等は整えられている。学生にとって実効性があるものとなるよう教職指導等の取組の充実に努めること。
- ・ 実務家教員等を活用し、学生の教職への動機付けや、採用試験の勉強などの指導を充実させること。
- ・ 教職を目指す学生を全学的にバックアップする体制を整備すること。

■ 教員養成カリキュラム委員会などの全学的組織の状況

<状況>

- ・全学的な組織として全学教職委員会があり、特に子ども教育学科については、教育実習運営委員会を設置している。

<講評>

- ・全学的に教職課程に取り組む体制づくりに努めること。
- ・大学と教育現場との関係づくりを進めるよう努めること。

■ 教員養成カリキュラム委員会などの全学的組織の状況

<講評>

- ・教職関係の図書、学術雑誌等の資料や、各種機器が十分にそろえられている。
- ・特に、図書館の学生閲覧室は大変充実しており、評価できる。

